

「お酒に強い」を決める遺伝子と アルコールによる健康リスクについて①

今回は内科部長 川崎敬太郎先生に「遺伝子とアルコールによる健康リスク」について伺いました。



▲川崎 敬太郎 医師

適度のアルコール摂取は健康にいいという通説がありますが、近年の研究で覆されつつあります。最近特に発がんのリスクファクターとなる報

告が増えてきています。まずお酒に対する強さにかかわるALDH2遺伝子の話をします。活性型・欠損型という2種類があり、欠損型のALDH2遺伝子をもつとアルコール代謝が遅くなり

ます。お酒に対する強さにかかわるALDH2遺伝子の話をします。活性型・欠損型という2種類があり、欠損型のALDH2遺伝子をもつとアルコール代謝が遅くなり

ます。お酒に対する強さにかかわるALDH2遺伝子の話をします。活性型・欠損型という2種類があり、欠損型のALDH2遺伝子をもつとアルコール代謝が遅くなり

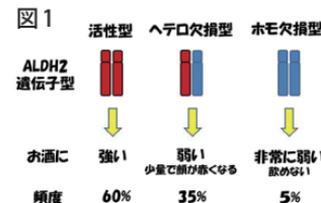
欠損型のALDH2遺伝子は東アジア人にみられ、それ以外の地域では殆どみられません。日本では東北や四国・九州南部に少ない傾向にあります。遺伝子は父親と母親から1つずつもらい、その組み合わせでお酒の強さが決まります。

2つとも活性型(ホモ活性型)、活性型・欠損型1つずつ(ヘテロ欠損型)、2つとも欠損型(ホモ欠損型)の3つのパターンがあります。

2つとも活性型(ホモ活性型)、活性型・欠損型1つずつ(ヘテロ欠損型)、2つとも欠損型(ホモ欠損型)の3つのパターンがあります。

2つとも欠損型(ホモ欠損型)の3つのパターンがあります。

2つとも欠損型(ホモ欠損型)の3つのパターンがあります。



える」と言われますが、アルコールをより多く摂取することになるので、アルコールによる健康リスクは非常に高くなります。今回はアルコールの健康リスクとその対策についてお話しします。



社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院

☎0898-47-2500

今治市喜田村7丁目1番6号



<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>